

原子燃料サイクル事業の現在の状況について

1. ウラン濃縮事業

(1) 運転状況

生産運転停止中

2. 低レベル放射性廃棄物埋設事業

(1) 低レベル放射性廃棄物埋設センターへの廃棄体受入状況

受入れ日	搬出側施設名	数量
平成 31 年 3 月 13 日～ 3 月 15 日	関西電力(株) 美浜発電所	1,280 本 (1号埋設:120本 2号埋設:1,160本)
平成 31 年 3 月 27 日	中国電力(株) 島根原子力発電所	440 本(2号埋設)
令和元年 6 月 3 日～ 6 月 5 日	関西電力(株) 大飯発電所	1,704 本(2号埋設)
令和元年 7 月 1 日	四国電力(株) 伊方発電所	354 本 (1号埋設:114本 2号埋設:240本)
合 計		1号埋設対象廃棄体 234本 2号埋設対象廃棄体 3,544本

(前回の監視評価会議監視委員会(2/22)以降、7月末までの受入状況を記載)

(2) 低レベル放射性廃棄物受入れ・埋設実績

		受入れ本数	埋設本数
平成 31 年 4 月～ 令和元年 7 月末までの実績	1号埋設設備	114 本	320 本
	2号埋設設備	1,944 本	3,400 本
平成 31 年 4 月～令和元年 7 月末までの合計		2,058 本	3,720 本

(3) 中部電力(株)浜岡原子力発電所へ返送した外観の健全性に疑義のある廃棄体の調査結果及び再発防止対策と今後の対応

平成 30 年 3 月に中部電力(株)浜岡原子力発電所から受け入れた低レベル放射性廃棄体(200リットルドラム缶 960 本)のうち、平成 30 年 7 月及び平成 31 年 4 月に外観の健全性に疑義のある廃棄体 4 本について、同発電所へ返送し、同電力において詳細調査を行った。

令和元年 7 月 31 日に同電力における調査結果および再発防止対策と当社の今後の対応について取りまとめたことから、原子力規制庁へ報告した。

今後、同電力における再発防止対策が確実に実施されていることを確認していく。

なお、低レベル廃棄物管理建屋に一時貯蔵している同発電所から受け入れた廃棄体 956 本については、平成 31 年 2 月から 3 月の外観確認において健全性を確認しているが、今後、準備が整い次第、検査を行い、安全上問題がないことを確認後、定置する予定。

【調査結果】

事象確認年月日	本数	事象	原因
平成 30 年 4 月 23 日	1 本	(当社の確認結果) ・水滴および塗装剥がれ等を確認	廃棄物の収納時等にできたドラム缶底部内面の傷および廃棄物の収納後充填するモルタルとドラム缶底部内面に生じた隙間に溜まった水分等が原因となり、腐食が発生・進展し、水滴が発生したものと考えられる。
平成 30 年 5 月 28 日	1 本	(中部電力での調査結果) ・ドラム缶底部内面から外面に達する母材の腐食が確認された。	
平成 31 年 3 月 1 日	1 本		
平成 31 年 3 月 6 日	1 本	(当社の確認結果) ・塗装の膨らみを確認 (中部電力での調査結果) ・ドラム缶の母材そのものに異常は確認されず、健全性に問題はなかった。	ドラム缶表面の塗装内に微細な鉄粉が取り込まれたものであった。

【中部電力(株)の再発防止対策】

「傷を発生させない」対策

⇒傷を付けやすい廃棄物をドラム缶底部に入れない。

⇒板状の廃棄物が存在する場合は、板状の廃棄物から底部に収納する。

⇒廃棄物を収納する際はドラム缶を傾け収納しやすくする。

「隙間を発生させない」対策

⇒ドラム缶へのモルタル充填後、ドラム缶側面下部に振動機で振動を与える。

3. 高レベル放射性廃棄物管理事業

(1) 返還ガラス固化体受入れ・管理実績

	受入本数	管理本数
平成 31 年 4 月～令和元年 7 月末の実績	0 本	0 本

4. 再処理事業

(1) 工事の進捗状況(令和元年 7 月末現在)

再処理施設本体工事進捗率 約 99%

(2) アクティブ試験の進捗率(令和元年 7 月末現在)

総合進捗率 約 96%

(3) 使用済燃料受入れ量、再処理量

		受入れ量		再処理量	
平成 31 年 4 月～ 令和元年 7 月末までの実績	PWR	0 体	0 トン U	0 体	0 トン U
	BWR	0 体	0 トン U	0 体	0 トン U
平成 31 年 4 月～令和元年 7 月末までの合計		0 体	0 トン U	0 体	0 トン U

(4)再処理工場 ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋における廃気処理設備の第1排風機両系の停止

令和元年8月26日、ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋において、廃気処理設備の第1排風機を構成する2台の排風機のうち1台が故障した。もう1台の排風機が点検中であり起動できない状態であることから、第1排風機両系の停止と判断した。

廃棄処理系統として第1排風機と直列に繋がっている第2排風機が正常に機能しており、系統内の負圧は維持されている。

本事象によるモニタリングポストの値に変化はなく、環境への影響はない。

原因については、現在調査中。

5. MOX 燃料加工事業

(1) 工事の進捗状況(令和元年7月末現在)

工事進捗率

約 11.8%

6. トラブル等一覧(再発防止対策検討状況)

日時	場所	事象概要	原因	対応
H31.3.8	再処理事業 所敷地内の 緊急時対策 所(建設中) の工事現場 (管理区域 外)の鉄筋 加工場	協力会社作業員が鉄筋の切断作業を行っていたところ、近くにある枯れ草が燃えていることを確認したため、直ちに消火活動を行い消火し、その後、公設消防に通報した。 公設消防による現場確認の結果、12時50分に鎮火が確認された。 本事象による周辺環境への影響はなく、負傷者もない。	鉄筋の切断作業中、鉄筋カッターに火花を遮るために設置している火花受けが劣化により脱落し、火花が飛散して枯草へ引火して火災が発生した。	火気養生点検チェックシート中の点検項目に火花受けの緩みや損傷の有無を打診により確認する項目を新たに追加し、当社と元請会社の双方が確実に立会い点検を実施することとした。

(注) 下線部が今回報告する内容

以上

「詳細については、当社ホームページから確認することができます。(https://www.jnfl.co.jp/)」